

## ～技術士試験体験記～

HN : おっさ (S51.9.11 生)  
環境部門 (自然環境保全科目)

### 1, はじめに

長かった試験がようやく終わりました。一次試験の勉強を初めて二次試験合格まで 2 年間。特に一次試験合格から二次口頭試験日までは、技術士試験のことを考えなかった日はありません。たくさんの方に支えられてここまで来ることができました。私の体験談によって、これから受験する人たちに少しでも役にたてれば、私がお世話になった人たちへの恩送りになると思い、再現することにしました。

### 2, 自己紹介

私は学生の頃から勉強は得意ではありませんでした。ごく普通の高校を卒業して、アルバイトしていた寿司屋に就職しました。寿司屋も嫌になり、バイクで旅にでました。途中バイクが故障したため一時帰宅、その際アルバイトしたのが環境調査 (生活環境) にかんする仕事でした。そこで、動植物を調査する環境調査があるということを知り今の会社に入社しました (H12 年)。

### 3, 受験のきっかけ

技術士という資格を取得すると会社から毎月〇万円手当がつくということを知りました。しかし、自分はそんなキャラじゃないし受かるとは思っていませんでしたので、技術士について調べることもしませんでした。平成 23 年、RCCM の試験制度が変わり、若い技術者も受験できるようになりました。受験資格のある 7 人の社員が強制的に受験させられました。結果、私だけが合格しました。あれ？俺って頑張ればできる子なのか？と勘違いしたことが受験のきっかけとなりました。

### 4, 一次試験対策 (H25.1～10 月)

#### 【過去問を解く。理解できない問題はネットで検索】

勉強方法もよくわからないので、過去問が掲載された参考書を購入し勉強を始めました。大学受験の経験もないことから、基礎科目は意味がわかりませんでした。時間があるときにネットで法則などを調べました。大学生に向けたサイトで優しく解説しているサイトが多く、私でも理解できるレベルで解説されています。参考になりました。

### 5, 一次試験 (H25.10.14)

だらだら勉強したので準備不足感 MAX で挑むことになりました。あれ？適性難しい！過去問は楽勝だったのでほとんど勉強していない(T\_T)。基礎は少し簡単になったかな？専門は例年どおりの印象。適性やばいなあと後悔しながら終了。

## 6, 一次試験発表(H25.12月上旬)

合格通知が届きました。適性はあと1問間違っていれば不合格！会社から3名が受験しましたが、適性で落ちた人が1人いました。やはり適性は難しかった？合格者は私1人。ここから厳しい二次試験に挑戦することになります。この時点では認識が甘くあまり真剣に考えていませんでした。

## 7, 二次試験受験申込書の作成(H26.1月)

### 【技術士の添削を必ず受ける】

協力会社に同部門の技術士がいたため、受験は環境部門(自然環境保全科目)に決定。受験申込書に記載する業務経歴、業務内容の詳細について指導を受ける。経歴は技術者としての成長が確認できるか？業務内容の詳細は技術士らしい創意工夫が見られるか？など、当時はよくわかっていませんでした。口頭試験を終えてわかりました。口頭試験で落ちてしまう方は、この段階で失敗している場合があります。なめてはいけません。しっかり作り込みましょう。私は結局7案まで作成してようやくOKをいただきました。

## 8, 二次筆記試験対策 (H26.2~7月)

### 【過去問の模範解答作成(wordの常用漢字チェック機能)・必須科目はH13~18、25の過去問】

H25 過去問の模範解答を作成し、技術士の添削を受けました。結果ボロボロ。全て→すべて(常用漢字以外は使用禁止)、～おいては→使用禁止(話し言葉であり文章ではない)、文章を短くなど正しい日本語を覚えるよう指摘を受けました。8案まで作成してOKをいただいたため、過去5年分の模範解答を作成。また、想定問題を自作して回答を作りました。これに3ヶ月かかりました。必須科目については、過去問しか見ませんでした。古い問題は今の基準を確認しました。

5~7月は仕事の関係であまり勉強ができませんでした。7月最終週に6日間勉強の日を作り、これまで作成した模範解答を書きまくりました。解答用紙をダウンロードして6日間で150枚書きました。

なお、H25より過去は出題形式が違います。すべて3枚問題と想定して作成しました。1枚問題や2枚問題で出題された場合は1枚目、2枚目を書こうと思っていました。

## 9, 二次筆記試験 (H26.8.3)

必須科目は、過去問からも結構出題されました。でも、覚えていない問題も多く不安が残る回答となりました。

選択科目Ⅱは、一番時間が足りませんでした。2時間で4枚書くには、その場で考えるのは厳しいと感じました。1枚問題は4問から2問選択するのですが、1問しかわかりません。後回しにし、他の問題を解答しました。残り10分で再び問題1に戻り一番抽象的な問題を適当に回答しました。一応最後の2行目まで記載しました。

選択科目Ⅲは、用意した過去問で対応できました。最後の1マスまで記載できました。

#### 1 0, 二次筆記試験合格発表 (H26. 10. 30)

必須科目は自己採点の結果セーフだとわかっていました (あと1問でアウトでした)。選択科目Ⅱの1枚問題の失敗が気になって仕方ありませんでした。朝6:00起床し嫁とネットを確認。発表になっています。私の番号がありました。後日通知が届き、選択科目Ⅱ:B 選択科目Ⅲ:Aで総合A判定でした。

#### 1 1, 二次口頭試験対策 (H26. 11 月)

##### 【経歴・小論文の問題点の抽出・試験の場慣れ】

10月30日発送の合格通知が秋田に届いたのが11月4日。口頭試験日11月30日でした。ここで一気にあせりはじめます。すぐにSUKIYAKI塾東北の模擬試験を受験(11月9日)。ほぼ対策なしで挑み、結果ボロボロ。業務内容の詳細について背景や問題点の整理、想定質問20問ほど作成しました。法・倫理については、想定問題を30問程度作成しました。再びSUKIYAKI塾の模擬試験を受験(11月23日)。結果、文句なしのお言葉。たまたま想定した質問のみだったため、逆に問題点の抽出ができませんでした。場慣れ対策として、受験経験者の再現を読むことも有効だと感じました。SUKIYAKI塾の掲示板を通じて再現を送付していただいた方もいらっしゃいました。このような厚意を受けモチベーションも高まりました。

#### 1 2, 口頭試験 (H26. 11. 30)

以下に再現記録を添付します。

試験日：平成 26 年 11 月 30 日

場所：フォーラム 8

時間：13:20～13:38

試験官：A：進行役(60代?) B：学者風?(60代?)

試験 5 分前に試験会場となる 663 号室前に座る。

室内の音は一切聞こえない。

前の受験者は 13:18 分に部屋をでた。

13:19 分 おっささんですね。お入りくださいと声がかかった。

(私の入室まで試験官 A がドアをおさえてくれた)

A：入室時荷物を後ろの机に置き前の椅子に座ってください。

私：入室し、受験番号と名前を言う。

A：どうぞお座りください。

私：はい、ありがとうございます(荷物を置き着席)

A：それでは、受験票に書かれた業務経歴について 5 分程度で説明してください。

私：(5 分?)聞き間違えと思い 1 分程度で説明。

A：おっささんは河川生物が専門ですか？

私：特に専門はありません。現在担当している業務は、植物や魚類など多様な調査項目があり、すべてこなしています。

A：長くダム事業に携わっているようですが、苦勞した業務はありますか？

私：H23 に実施した両ハホ調査をあげます。この業務では自然状態(事業実施前)での動物類相の推移把握が課題でした。私は、植生図や河川改修歴をとりまとめました。結果、樹林が分断された地区では大型ホ乳類が減少する。石積み護岸は、ハ虫類の越冬地となり確認種数が増加するなどの傾向を把握することができました。

A：それでは、業務の詳細に書かれた内容を、経歴と同じように 1～2 分程度で説明してください。

私：約 2 分で説明

A：2014 年からモニタリング開始予定となっておりますが、どうでしたか？

私：今年度一部で保全策を試験施工し、モニタリングを実施したことを説明。

A：サシバはそんなにいるんですか？

私：当該地は秋田県の田舎であり、典型的な里地里山環境であることを説明。

A：なぜトノサマガエルだったんでしょう？

私：環境省第 4 次レッドリストでトノサマガエルが NT となったことを説明

A：このような業務を学会や雑誌に発表したことはありますか？

私：いいえ学会などにはありません。

A：雑誌はどうですか？

私：いいえありません。

A：このような業務の成果を発表することによって、有意義な成果となります。民間のコンサルの技術を広く伝えることが重要です。守秘義務があっても難しいとは思いますが、可能だと思いますので、今後はぜひ発表を考えてください。専門がないとおっしゃっていましたが、専門を持つことによって、自分の知見がひろがります。専門分野を是非お持ちになってください。

私：はい、私は秋田県で長く環境調査にたずさわっています。秋田は素晴らしい自然環境があるにもかかわらず自然環境保全科目の技術士は1名しか登録を受けていません。私が是非2番目となって秋田の自然環境保全に貢献したいと考えています。秋田の自然のプロになりたいです。

B：秋田のプロもいいでしょう。秋田のことならおっさんに任せてOKのような技術士になってください。でも、専門分野を持つことも大事ですよ。

私：はい、多様な調査を経験して、今は猛禽類に興味があります。

A：例えば猛禽類について3年くらい頑張ってみてください。きっと技術士として大きく成長しますよ。また、そのようなことで学会などにも積極的に参加してください。

(実際はもう少し色々指南していただきましたが)

A：Bさん何かありますか？

B：いいえ

A：それでは技術士法について伺います。3義務2責務を教えてください。

私：スムーズに回答

A：なぜ公益の確保が必要ですか？

私：先ほど試験官が言われたとおり技術士は多様な場面で責任ある立場に立ちます。その技術士が公益を損なうということは、社会に与える影響が大きいからだと思えます。

A：私も、この責務大事だと思うんですよ。なぜなら・・・

A：資質向上については何かおこなっていますか？また、合格後の抱負は？

私：はい、RCCMでCPD登録をおこなっています。今は資格取得に取り組んでいます。合格後は、今回の受験でお世話になった講座(sukiyaki塾)のボランティア講師として後輩の指導もおこなえたらいいと思っています。

A：はい、わかりました。Bさんほかにありますか？

B：いいえ

A：では試験を終わります。お疲れ様でした。

次項 感想

## 感想

試験官は温和でたまに笑顔も見える方でした。最初の雑談は一切ありませんでした。実際はこの再現よりも多くのことを語られていました。多分私がしゃべっている時間より試験官 A の方がしゃべっている時間が長かったと思います。私は、あいづちを打ちながら話を聞いている感じでした。質問数が少なかったのもありますが、特に回答に困るようなことはありませんでした。とにかく、学会に参加するよう何度も言われたことが印象に残っています。

以上

### 1 3, 口頭試験合格発表 (H26. 3. 2)

試験日以降は SUKIYAKI 塾の掲示板を見ながら、自分の試験はどうだったのか考えていました。他の受験者の書き込みを見て、自分は大丈夫か? など、不安な 3 ヶ月間を過ごしました。H27 年は建設部門(建設環境)を受験する予定でしたので、試験勉強など始めてみますが、全く手につきませんでした。口頭試験自体は和やかであったことから、大丈夫だと信じていましたが、いざ発表日となると緊張が高まってきます。発表日は 6:00~仕事だったため、帰社後 16:30 頃 HP で確認。筆記発表の時のような歓喜はありませんでした。何かほっとしたような感じです。

### 1 4, 試験を終えて

私は高卒で、勉強は人より苦手だと思っていました。RCCM に合格したことで勘違いし、ここまできました。RCCM、技術士一次、二次、すべての択一で残り 1 問というギリギリで滑り込むことができました。運もよかったと思います。

試験勉強を始めるまで、技術士とは雲の上の資格だと思っていました。受験を終わった感想としては、「自分は立派な人間じゃないけど、他の人も余りかわらないんだな」と思いました。決して技術士の資格が簡単だと言っている訳ではありません。学がなくても、必死で勉強すれば合格できるんです。

東日本大震災以来、技術者不足が日本の課題となっています。基礎科目など高等な学力を要する科目を少し簡単にして、適性で絞る傾向が見られたと思います。

学がない人でも一生懸命勉強すれば合格できる。頭のいい人でも勉強しないと合格できない資格になっているのではないのでしょうか。RCCM でも問題 2 が難関になってきているようです。世の中には、私と同様に技術士は難関と決めつけ最初からあきらめている人が多くいると思います。この体験記を読んで一人でも、「よし、やってみるか」と思ってくださいの方が現れれば幸いです。

### 1 5, 最後に

こんな私が、技術士という立派な資格をとれたのには、周囲の協力があったことです。

まずは、受験申し込みから添削していただいた先輩技術士、会社、家族に感謝します。口頭試験では SUKIYAKI 塾の方に大変お世話になりました。お忙しい中、個人的に時間を割いてくださった講師の方もいらっしゃいます。試験前日に励ましのメールもいただきました。塾の掲示板をとおして試験の再現を送付してくださった H25 受験者の方もいました。H27 年からは私も講師として参加させていただけるようなので今から楽しみです。

また、模擬口頭試験や試験日当日にお話しができた受験生の方々と現在もメールのやりとりができています。大半の方が合格されました。このような方々と知り合いになれたことも、有意義だったと感じています。

ここから、私の人生新たなステージのスタートだと思っています。資質向上に努め、お世話になった方々を落胆させないような技術士になります。 以上

平成 27 年 3 月 2 日おっさ